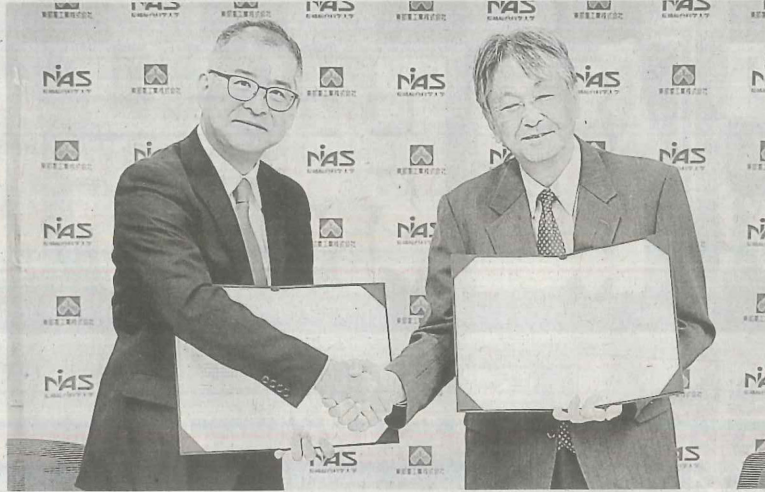


協定書に署名し、握手を交わす豊永社長(左)と黒川学長(県庁)



長崎総科大と東部重工業が協定

長崎総合科学大(長崎市)と東部重工業(千葉県浦安市)は18日、共同研究や人材育成を通じて地域社会の発展に貢献することを目的とした包括連携協定を結んだ。10月1日には、先端的な物流システムの構築を目指す共同研究講座も開設した。

人材育成、物流システム構築へ共同研究

東部重工業は、穀物や鉱物資源といった船の荷物を積み下ろす港湾荷役用のグラブバケットなどを製造。2008年に佐世保工場(佐世保市)を開設し、長総大教員との共同研究などに取り組んできた。同大が県内に拠点を置く製造業と包括連携協定を結ぶのは初めて。

共同研究では、長総大の人工知能(AI)技術も活用しながら、機械装置の解析やシミュレーション技術を構築し、効率的な物流システムの実現を目指す。東部重工業の熟練技術者による指導や課題探求型のインターンシップ、子ども対象のものづくり体験などにも取り組む予定。県も情報発信などで後押しする考え。

県庁であった調印式では黒川不二雄学長と豊永健社長が協定書に署名。西彼長

与町出身の豊永社長は「われわれの経験と大学の高度な知を融合することで、物流の現場でのリアルな課題解決を図りたい」とあいさつした。黒川学長は「産学官一体となった取り組みで地域全体での技術革新と人材育成を実現したい」と意気込みを語った。

(義川裕之)